

別記様式

		担当課	総合政策課
会議の名称	令和5年度 第1回鴻巣市総合教育会議		
開催日	令和5年9月14日(木)		
開催時間	午後1時15分 開会 ・ 午後2時05分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所本庁舎 303会議室		
議長氏名	鴻巣市長 並木 正年		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	鴻巣市長 並木 正年 <b>【教育委員会】</b> 教育長 望月 栄 教育長職務代理者 加藤 幸弘 委員 坂本 孝子 委員 斉藤 敬 委員 太田 恭子 (6名)		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	なし		
執行部及び事務局 職員職氏名	<b>【市長部局】</b> 市長政策室長 藤崎 秀也 市長政策室副室長 沼上 勝 こども未来部長 小林 宣也 こども未来部副部長 佐々木 晴美 <b>【教育委員会】</b> 教育部長 齊藤 隆志 教育部参与 上岡 勝 <b>【事務局】</b> 総合政策課長 富田 真久 総合政策課主査 齋藤 則考		
傍聴の可否 (傍聴者数)	可 (1名)		
会議の内容	(内容) 1 小谷小学校の今後の方針について 2 川里地域の小中一貫教育校の新設について 3 全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査について (決定事項など) 内容1については、「小谷小学校の通学区域の見直し(案)」の資料を用いて、今後、小谷小学校の児童数が減少し、令和11年度の全校児童数が現在の101人から71人となるため、令和6年3月31日で廃校とし、令和7年4月1日から、それぞれの小学校に通っていただくことを検討している旨の説明があり、次のような意見交換がされた。 ○小谷南から箕田小学校へ行くには、武蔵水路の側道を渡る必要があり、登下校の安全が心配である →水難防止パトロール等を通じて、危険な箇所はできる限り塞ぐよう調整するとともに、地域の見守りボランティアとも協力しながら、子どもたちの安全を確保する		

○小谷小はまだ校舎が新しく、非常に綺麗な状態だが、使わなくなった後はどのような形で活用されるのか

→跡地利用については、災害時の避難所は当然のことだが、芝生も綺麗で体育館も造って間もないため、そこを活用した中で、何が一番良いのか、民間等の提案も取り入れながら、検討を進めていく

○前砂の地域は、南北に長いため、赤見台第二小学校に近いから通いたいという場合、何か特別な手続きをしなくても通えるのか

→地域の一体性等を考えていくと、子どもたちを分断するのは非常に難しく、前砂でも今後、新入学生が5人から1人や2人になるため、できるだけ地域は一つの小学校に通うということとなっており、南の方は少し遠いが、吹上小学校に通っていただくことを想定している

○学校を変えることにより、スクールバスで通う児童はいるのか。

→スクールバスは、統合に伴って、小学校から2キロを超えた場合に運行している。今回は、ほぼ2キロ圏内に入っているため、新一年生は歩いてそれぞれの小学校に通うこととなる。ただ、在校生の2年生以上の子たちが、吹上小学校に通いたいとなった場合は、スクールバスを出す必要があると考える

○児童が1名であってもスクールバスを出すのか

→1名の場合は、ワゴン車のような車になるが、人数に応じて大きさは調整していく

○大芦小学校も同様の動きがあるが、小谷小と一緒にではなく、別々に検討・実施していくのか

→小谷小も大芦小も、令和6年から令和9年までの間で、地元の方の意見を交換しながら見直していくこととなっているが、各々の地域の考えが異なる部分もあり、小谷地域の方は、できるだけ早く統合した方がいいのではないかということで、先に小谷小の統合の検討を進めながら、大芦も地域の懇話会や説明会をこれから開催する予定

内容2については、「川里地域の小中一貫教育校の配置計画・平面ゾーニング計画」の資料を用いて、川里中学校周辺に計画している小中一貫教育校に係る5つの配置案の説明があり、次のような意見交換がされた。

- ・周りの友人含めて基本的に賛成で、もっと早くこの計画があればという希望があった。心配なのは距離が遠くなるくらいで、本当に将来が楽しみである
- ・案1及び案2では、道を挟んで第2グラウンドがあるため、安全面で不安がある。小学生もいるので、同じ敷地内の方が安全面で管理しやすいのではないか
- ・川里図書館は、本の数も豊富で、勉強できるスペースもあるため、このまま残してほしい
- ・小学校から中学校までずっと同じメンバーのため、何か友達関係でトラブルあったときに、対応が難しいのではないかと
- ・小中一貫教育校の新設を鴻巣市で初めて取り組んで、色々な課題はあるかもしれないが、教育委員会と学校、保護者の方と協力しながら、9年間同じ学校に進んだことによって学力が向上できたとか、この特性が伸ばせたというような、そういう取組ができれば良い。マイナス面があるかもしれないが、それ以上にメリットのことを考えて取り組んだ方が、新しい令和の学校みたいな形で良い

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案2は北風の影響を受けるので難しいのではないか</li> <li>・教育現場では、小学校と中学校は繋がっているようで、お互いの交流が少ないと感じている。その点、小中一貫校は同じ敷地内で、長期的な目標により目指す姿があつて教育に取り組めるため、素晴らしい環境だと感じる</li> <li>○拡張候補地を利用する案があるが、そもそも土地を買収できるのか</li> <li>→事業の実施が決定していない段階で、土地の所有者に交渉はできない。いずれにしても、現在実施しているワークショップ等で、この案が表に出てきているため、今後具体的な話が進む中で、調整していく</li> <li>○学童はどうなるのか</li> <li>→学校を1か所に集約するため、学童も集約することを想定しており、今現在ふるさと館の中で未使用の保健センターや、来年3月で総合福祉センターに統合するポプラ館を改修して活用することを検討している</li> </ul> <p>内容3については、「令和5年度全国学力・学習状況調査結果概要」及び「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査結果概要」の資料を用いて、各々の調査結果の説明があり、「全国学力・学習状況調査」では、小学校6年生の算数以外はすべて全国平均を上回っており、「埼玉県学力・学習状況調査」では、全ての学年、全ての教科で埼玉県平均を上回ったとの説明があり、次のような意見交換がされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会と学校、児童生徒が一生懸命努力した成果が表れてきている。教育はすぐに結果が出ないため、ある程度のスパンを持って取り組んだ成果が少しずつ表れていて、それはとても良い</li> <li>・児童の質問紙調査における今年度の状況を見ると、教育委員会や各学校が質問紙の抜粋10項目について確認した方がよいと思う。子どもたちが自己肯定感を高め、毎日頑張ろうという気持ちで過ごせる環境が、いじめも起きない状況を作り、不登校の児童生徒の減少にも繋がるため、学力だけじゃなく心の部分についても、さらに分析して取り組んでいただけるとありがたい</li> <li>・今回だけの結果を「点」で見ると、それだけで終わってしまうので、今までの成果や培ってきた力を今後も積み重ね、「点」ではなく「線」で取り組んでいくことが重要</li> <li>・授業等で課題が早く終わった子どもたちの空き時間に、タブレットで自分なりに問題を解いている学校を見ると、そういった取組が数字に表れているのだと思う</li> <li>・鴻巣市の平均が埼玉県の平均を上回っているということだが、個人の差はすごくあり、今後は子どもたちが誰一人取り残されないような、教育現場での取組が重要である</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度 第1回鴻巣市総合教育会議 次第</li> <li>・小谷小学校の通学区域の見直し(案)</li> <li>・川里地域の小中一貫教育校の配置計画・平面ゾーニング計画</li> <li>・令和5年度全国学力・学習状況調査結果概要</li> <li>・令和5年度埼玉県学力・学習状況調査結果概要</li> </ul>

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。